



ひかりの森レター

令和2年11月 No. 8

年1回発行

<編集・発行> NPO 法人 視覚障がい者支援協会・ひかりの森
〒343-0816 埼玉県越谷市弥生町1-9 山崎ビル2F TEL/FAX 048-962-9888
Mail:hikarinomori@cameo.plala.or.jp http://npo-hikarinomori.com/

輪をひろげ 心つなぐ

コロナ禍 - みんなでエールを -

NPO 法人 視覚障がい者支援協会・ひかりの森
理事長 松田 和子



2020.11 臨時総会

ひかりの森は、NPO 法人設立 12 年目を迎えることが出来ました。
会員の方やご支援を頂いた皆様に感謝申し上げます。

コロナ禍中をどのようにお過ごしでしょうか。今年は季節を感じる事もなく 12 月を迎えています。

世界中が新型コロナウイルスという聞いたことのない感染症に脅かされています。

人類の危機とも思える勢いで感染症は広がり、ついに東京オリンピックは中止、全国の行事やイベントだけでなく仕事や教育、あらゆる分野で未曾有の課題が噴出しています。

私たちの生活も一変しました。施設利用者に 1 ヶ月半の休業を取ってもらい、三密を避け感染防止に備えました。現在は利用者数と活動を 7 割にし、在宅と訪問ケアを取り入れながら継続しています。

今回、視覚障がい者とソーシャルディスタンスの問題が報道でも度々取り上げられました。例えば、店内で買い物をする時、手に取って確認しづらい、会計時、人との距離感がつかめない等、又移動時、ガイドの方との距離感が気にかかる 等の問題です。

視覚障がい者は、人が身近にいることで安心して動けます。側にいる人、周りにいる人からの声掛けやサポートで、視覚障がい者の命が救われることがあるのです。

皆でエールを交わし合うことが、人の温もりを感じ合う事と思っています。

埼玉県東部地域振興センターの方が見学に来られ、 埼玉県のホームページで紹介されました。

NPO 法人視覚障がい者支援協会・ひかりの森は視覚障がい者のための地域活動支援センターとして、2009 年からデイケア事業を開始しました。

県内の NPO 法人では唯一「ひかりの森」だけが視覚障がい者の自立支援を行っています。

【県民の皆様へ】

視覚障がい者のための施設が身近にあることを理解していただき、視覚障がい者を見かけたら是非やさしく声をかけてください。私たちは障がいがあることも一つの財産であると考えています。

スタッフの皆さんの明るい笑顔がとても印象的でした。

(HPより抜粋)



報告

令和元年度 活動報告・令和2年度 活動計画

【令和元年度】

引き続き地活におけるデイケア事業の基礎的事業、機能強化事業、就労支援などに積極的に取り組んだ。令和元年度における一日平均利用者は、13.1名。利用登録者は70名(市内39名、市外31名)である。

・授産事業である点字名刺作業者は8名で、年間568件で、受注のデータベース化を行った。

「こころのアート展」(12/7 レイクタウン)に木工、ゆかたの花を出品した。

・相談支援事業所の相談契約者は99名と大幅に増加した。(計画書作成90件、モニタリング196件)

また、事務効率化に努め、就労支援フォーラムにも引き続き参加した。

・広報活動としては、ホームページによる情報発信をタイムリーに行った。

ひかりの森レター1,000部、リーフレット500部発行した。

・啓発活動として、「ひかりの森フェア」を継続開催した。(9/6,7 96名参加)

施設外の「フレンズデイ」を継続実施。「かふえとも」に参加。

埼玉県視覚障害支援ネット「彩のひとみ」研修会に参加した。(DVDあるつく150本寄付)

DVD「あるつく」は、継続的に普及に取り組んだ。県立大など研修受け入れを行った。

社協ガイドヘルパー「ステップアップ研修」に出講した。(1/24、第2回は中止)

ひかりの森セミナーは、新型コロナウイルスの影響で中止した。

・調査・研究活動として、バリアフリー研究会活動の情報交流会を開催し、越谷市関係課、警察、東武鉄道他参加した。(11/20)

・その他

NPOの将来事業の充実に向け職員の新規採用を行うとともに、事業効率化のためのデータベース化を進め、会計事務ソフトを導入した。

ひかりの森会員は30名、賛助会員は80名の実勢である。

新規事業は、立地を含めて検討継続中である。

【令和2年度】

1. NPO活動に係る事業

①デイケア事業／基礎的事業、機能強化事業、就労支援に継続的に取り組み、利用者の増加を図る。

②啓発活動／ひかりの森フェア、フレンズデイ、他団体との協働活動 他の内容を検証し、啓発活動を継続する。

③調査・研究活動／バリアフリー研究会を継続してゆく。

④相談支援事業所／相談体制の改善に努める。

2. その他の事業

授産事業／データベースを活用した受注の安定化を図るとともに、作業者の技能向上に努める。

3. 運営関連

①広報活動／ホームページ、ひかりの森レターの継続と内容充実に努める

②管理業務等／職員研修、業務改善に継続的に取り組む。

③その他／新規事業(就労継続支援b型、他)は、行政とも相談しながら継続して対応する。

以上

理事の退任に当たり 中島 泉

中島はひかりの森の設立時より理事として係わってまいりました。

デイケア施設の設立、その後のNPO法人視覚障がい者支援協会設立等携わって、あっという間に十数年が過ぎました。これから視覚障がい者にどんなサービスが必要か、地域活動支援センターだけでは、もう、限界のようです。NPO法人では、相談事業、授産事業など、これからの事業拡大してゆくにあたり、新しい当事者の理事さんにバトンタッチをして今後の運営をお願いしたいと思いました。障がい者に理解を示して、なおかつ今後の障がい者の自立についても、理解を示してくれる人材として視覚障がいである村上さんを新しい理事として推薦致しました。視野を広く持たれた方なので、どうぞ宜しくお願いいたします。

新理事 村上政隆

私がひかりの森の会員になったのは2017年8月です。その年の4月に突然全盲となり、暗中模索の中、偶然ラジオ放送でこの存在を知りました。

そして、ひかりの森へ通い、視覚障がい者に特化した活動にチャレンジして来ました。また、障がい者支援の社会的な制度などの情報も折につけ耳にし、先行きが見通せない不安が少しづつ晴れていったことを覚えています。ひかりの森へいつも通っていると、この場所があることが当たり前のように思えます。しかし、このような場所は全国でも稀な存在です。

今、私は思います。社会に必要な組織を継続するための「組織における自助・共助・公助」についてです。「公助」は言わずもがなですが、「共助」とは、ひかりの森の会員においては、それぞれが日々の活動に参加することでしょう。そして、「自助」とは、ひかりの森の活動を広く社会に発信すること。これこそが最も大切な事でしょう。私は、それを推進したいと思います。

感染症予防と安心・安全なサポートの両立

NPO法人 ひかりの森理事

社会福祉士、歩行訓練士 小倉 芳枝

新型コロナウイルスの感染拡大以来、支援場面では対人距離が近くなるために「どうしたら良いのか」と不安の声がきかれます。

日本歩行訓練士会、東京盲ろう者との会が支援についてのガイドラインを出しました。共通するのは「感染予防の対策をした上で、支援はいつも通りに」という考え方です。視覚障害者も盲ろう者も、日常生活を安全に過ごすために人との濃厚接触をせざるを得ない。感染防止を優先するあまり危険な状況を招くことは避けなければならない。支援では安全性・安心感の確保が最優先であり、安全性の確保の中に新型コロナウイルスの感染防止も重要な観点として含まれる、ということです。

具体的に挙げられているのは

- ・検温、マスク着用、手洗い等の配慮は双方が十分に行う
- ・話す際は対面を避け、同方向を向くようにする
- ・直接物に手で触れるのは必要最低限にする

※盲ろう者との会は「触れることを制限しない。しっかり手を消毒して触る」等、一般的な感染防止対策です。「コロナ禍で町中での声かけが減ってしまった」という声がある一方、「減ったとは感じない。丁寧に声をかけてもらうことが増えた」「買物で品物に触れたり、顔に近づけて見たりするのを避けたくて、初めて店員にサポートを依頼したら快く対応してくれた」ということもお聞きます。おそらく、世の中の多くの方は視覚障害者が困っていたらサポートしたいと考えていると思います。このご時世、「声をかけたり、手を取ったりしても大丈夫だろうか」という戸惑いを感じるのは無理もないでしょう。視覚障害者も健康・衛生管理の対策をしっかり取っていること、接することでのリスクは無いことをしっかりと発信していかなければと考えております。

★ 賛助会員を募集中!!

「人のために、皆のために、社会のために」と思っている方。

同じ思いを持った仲間を作りたい方。

あなたの豊かな経験や貴重な体験をひかりの森で活かしましょう。

越谷の宝『ひかりの森』を応援しましょう!



音楽療法プログラムに参加して

帝京大学 視能矯正学科准教授 林 弘美(賛助会員)

先日、ひかりの森主催の音楽療法プログラムに学生と共に参加させていただきました。音楽療法士 中川洋子先生のご指導で、日ごろ休止している脳の領域を活性化しながら音楽を楽しむという内容でした。軽い気持ちで参加させていただきましたが、やっているうちに余裕がなくなりました。一番出来なかったのは、両手じゃんけんです。先生は「目で確認してはダメですよ」と助言してくれました。確かに、右手を目で確認してから左手に指令を出したのでは間に合いません。そこで次の手段として、左手用にグーに負ける「チョキ」チョキに負ける「パー」パーに負ける「グー」と音声化し、呪文のように唱えてみました。が、残念なことに、右手も左手に付いてきてしまって、結局失敗してしまいました。周りを見回すと、みなさんは易々とクリアされています。どうやら、ひかりの森では、このようなトレーニングを日々されているらしいのです。トングのような楽器を手渡され、振ってみるとお腹に伝わるズーンという重い響きが、「楽器なのに、何て不思議な鳴らし方なのだろう?!」その振動は手から肩そして背骨を伝わってジーンと身体に響いていきます。その楽器は、トーンチャイムといって、チタン製で、身体への響き方は材質によって違うのだそうです。

いつも貴重な体験を与えてくれる「ひかりの森」ワンダーランドに 感謝! の1日でした。

点字名刺はいかが? 就労が難しいひかりの森の利用者が、

既成の名刺に点字をいれる生産活動に励んでいます。

※全国の皆様からのご注文をお待ちしています。

※ホームページからも申し込みが出来ます。

ホームページ <http://npo-hikarinomori.com/>



センターだより

毎月の活動プログラムは、
ホームページをご覧ください。

中途視覚障がい者（見えにくい弱視）の方々が、
仕事を続けることはとても困難です。
社会の無理解のため、働きたくても仕事がないの
が現状です。

<点字名刺>

「地域活動支援センター ひかりの森」では、ロービジョンワークとして名刺の点字加工をしています。視覚障がい者のコミュニケーションのツールとなる点字の読み書きを覚えた後、名刺に点字加工しています。作った人から使う人へエールをこめてお届けします。



<ゆかたの花>

川のある町越谷の浴衣地を取り入れて、
薔薇の花を作っています。
プレゼントに喜ばれています。



<販売店>

東越谷
サルーテ
赤山町1丁目
絵本館



可愛い動物の
印鑑立て

<木工製品>

ひかりの森利用者が、丁寧に仕上げた木工製品です。
プレゼントやイベントの記念品としてご利用下さい。
オーダーもご相談下さい。



大好評！！
スマホ立て
メガネ置き

製品についてのお問合せは、ひかりの森へ TEL048-962-9888 (越谷市役所1F・市活センター5F 展示中)